

WORLD BANK GROUP

INTERNATIONAL BANK FOR RECONSTRUCTION AND DEVELOPMENT
INTERNATIONAL FINANCE CORPORATION
INTERNATIONAL DEVELOPMENT ASSOCIATION
INTERNATIONAL CENTRE FOR SETTLEMENT OF INVESTMENT DISPUTES
MULTILATERAL INVESTMENT GUARANTEE AGENCY

INTERNATIONAL MONETARY FUND

J

Press Release No. 2 (J)

2005 年 9 月 24~25 日

最終バージョン
(実際のスピーチと照合済み)

世界銀行グループ年次総会
合同討議会で行われた
世界銀行グループ総裁
ポール・ウォルフォウイツによるスピーチ

未来の構図を描く： 結果の在り方

最終バージョン

2005 年年次総会スピーチ

ポール・D・ウォルフォウイツ
総裁
世界銀行グループ
2005 年 9 月 24 日、ワシントン DC

I. 行動の提起

議長、総務の皆様、そしてご来賓の方々

世界銀行グループと国際通貨基金の年次総会にご出席いただきため、ここワシントンにお越しいただき心から感謝します。世界銀行グループの総裁として初めてこの場に立つことを誠に光栄に思います。

それと同時に、世界の最貧困国の人々に明るい未来をもたらすという国際活動の中で、その中核に立つ機関の指導者としての役割に重大な責任も感じています。

* * *

さらに、IMF の専務理事である同胞、ロドリゴ・デ・ラトと世銀の理事の皆様に対しても、ここ数ヵ月間、緊密でしかも貴重なご支援をいただき心から感謝しています。

とりわけ、ウォルフェンソン前総裁に対しては深い感謝の念を表します。本日ここにご出席いたしましたが、我々一同、同氏の速やかなご回復と今後のご健康を心からお祈りしております。過去 10 年にわたり、この組織の士気とイメージの構築に貢献し、貧困削減という世銀の第一の使命に的を絞ることができたのは、同氏のリーダーシップにほかなりません。さらに、腐敗や市民社会の役割といった重大な課題を開発アジェンダの筆頭に掲げたのも同氏の功績によるものです。このリーダーシップのおかげで、世界銀行グループは今日、さらに強固な組織となっています。

* * *

本日の総会は、これまでにない異例の環境で開催されています。貧困との闘いでこれほど緊急に成果を出さなければならぬことはこれまでありませんでしたし、国際社会からこれほど強く行動が提起されたのも前例のないことです。

グレンイーグルズでのG8サミットの前夜、私は、エジンバラで開催された最後の「ライブ8コンサート」に赴き、そこに集う5万人の若者に加わりました。あいにく陰鬱な空模様でしたが、雨が群衆の熱気を冷ますことはありませんでした。

どの目も、巨大スクリーンに映し出された、南アフリカ解放の祖、ネルソン・マンデラの姿にくぎ付けになり、「貧困を葬り去る」ことが我々世代の責務だと、同氏が新たな闘いを呼びかけると、それに賛同する群衆の叫びがいっせいに轟いたのです。

この事実を直面するものは誰でも、急きょ行動を起こす必要性にうなづくはずです。

毎日、極度の貧困にあえぐ多数の人々が予防可能な疾病で死亡しています。その多くは子供たちです。

アフリカでは、死亡率と貧困のスケールがまさに危険な水準に達しています。1981年以来、1日1ドル未満で生活するアフリカ市民の数は1億6,400万人から3億1,400万人へとほぼ倍増しています。

しかし、人々を貧困から逸脱させ、人命を救い、希望を与えるために、できることは数多くあります。

貧困に終止符を打つという呼びかけは、世代や、国境、国籍を超えて浸透し、さらに宗教、性別、政治理念を超越して広範囲に及んでいます。

コンサート・スタジアムから、路上のデモ、そして高レベルのサミットに至るまで、一般市民も指導者も、富裕国も貧困国も、人々の苦しみを痛感し、今すぐ行動を起こすよう要求しています。

7月に開催されたグレンイーグルズ・サミットでは、画期的な合意に至りました。8ヵ国首脳がアフリカ向け援助を倍増し、最貧困国向け債務の取消しに応じたのです。

ですから、我々は一つの転機に立っているわけで、将来に希望を託せるだけの理由も存在します。事実、ここ数10年の間に世界の最貧困国に住む人々の生活が大きく改善されています。

過去25年間で、1日1ドル未満で生活する人々の数はおよそ4億人ほど減少しました。これは、過去何世紀にわたって見られなかった最大の減少率です。

途上国の寿命は、40年前に比べて平均15年ほど伸びています。

30年前、途上国の非識字率は人口の半数に及んでいましたが、今日ではその半分に低下しています。

確かに著しい進歩を遂げました。しかし、もっと多くのことが可能なのも確かです。こうした進歩は主にアジアとラテンアメリカで見られましたが、これを世界の他の地域で実現することは可能です。

数週間前、パキスタンのドク・タバラクという村に住む一人の貧しい女性に会いました。この女性は、世界銀行の支援を受けてパキスタン貧困緩和基金が主催している農村開発プロジェクトに参加していました。

このプロジェクトをパキスタンの他の地域でも成功させることができると尋ねると、この女性は熱意と自信を込めてこう語ったのです。「もちろんですよ。日本だって成功させたし、中国も成功させたことを、パキスタンができないわけはないでしょう」。

ここ40年間の変貌ぶりには著しいものがあります。60年代半ば、韓国には開発を成功させるための要因が揃っていないから、同国の運命は暗澹たるものだという誠に悲観的な分析を読んだ覚えがありますが、それから数10年後に、韓国をはじめとする東アジア諸国は、人類の歴史にない最短期間のうちに最多数の人々の所得を最大に引き上げたのです。

ですから、アフリカの人々のもつエネルギーを解放し、民間セクターの潜在能力を雇用創出に発揮することができれば、アフリカは希望で満たされるだけでなく、目的を見事に達成した地域となるでしょう。

アフリカの抱える問題は膨大で、統計値に圧倒されがちですが、ここで覚えておいていただきたいのは、今日、アフリカを悲観視する人々と同じ数だけ、40年前に東アジアの運命を諦めていた人々がいたことです。

II. 開発に対する考え方の変遷

開発作業の在り方についても、40年という長い道のりを経てきました。開発作業が複雑になりかねず、場合によっては不可解な過程であることは周知の事実です。

40年前の学者たちは、主に投入する労働力と資本で経済成長を定義しようと試みましたが、これに第三の変数としてテクノロジーが導入されたときは、画期的な考え方とみなされたものです。

それが今日では、開発と成長の駆動力とは何かをもっと幅広く的確に把握しています。

開発と貧困削減には、経済成長の持続的推進が不可欠であることが分かっています。さらに、駆動力となる要因の多くは量的に測定できないことも承知しています。こうした要因は、測定しにくく、予想し難く、影響を与えることが往々にして困難であるため、「ソフト」な要因として度外視されるきらいがあります。

しかしこれは間違います。持続可能な開発とは、労働力や資本と同様に、リーダーシップと説明責任、市民社会と女性、民間セクター、法律に依存しているのです。

これら4つの要因について簡単に説明させていただきましょう。

リーダーシップと説明責任

貧困削減の最も重要な決定要因はおそらくリーダーシップだと言えましょう。

しかし、開発作業はチーム・スポーツのようなもので、ここで言うリーダーシップとは個人のパフォーマンスを意味するのではなく、信頼と、尊敬、チームワークという土台の上に成り立たなければなりません。ネルソン・マンデラが私に語ってくれたように、リーダーシップには理解力が必要です。それは、指導者が一個人として行動するのではなく、同氏の言葉を引用すると、集団を代表するものなのです。

すなわち、同氏が昔述べた簡潔な表現を用いると、「誰の功績か全く気にしなければ、達成できることは無限にある」のです。

有能な指導者はまた、人々に説明する責任をわきまえています。有能な指導者は聞く耳を持っています。市民団体や、言論の自由を保証された報道機関など、責任の所在を明らかにできる組織は、指導者が人々の話を聞く助けとなりうるほか、結果を説明する責任を追及し、腐敗を暴露するのにも役立ちます。

汚職は、資源を無駄にし、投資の妨げになるうえ、特権階級に温浴をもたらし、貧困者を搾取するものです。それは、よりよい生活とより確かな未来を求める貧困者の希望を脅かすものです。

反対に、健全で説明責任を備えたガバナンスは、活発な市民活動とエネルギー溢れる民間セクターが躍動できる土壌を培います。

第二の重要な要因は、市民社会と、特にそれが女性に対してどのような役割を果たしているかです。

市民社会団体（CSO）は、市民と政府の間の重要な掛け橋となることで、説明責任の追求に貢献していますが、それ以上の役割も果たしています。CSOは成功の原動力であり、好機をもたらす手段でもあります。私が歴訪したどの国でも、CSOは、学習、適合、知識共有、現地コミュニティの成長支援といった面で豊かな経験を提供しています。

市民社会団体は、女性のエンパワメントでも特に重要な存在となっています。女性は、成長を達成するうえでの重要な要因だと言えます。パキスタンで一人の貧しい女性が私にこう語ってくれました。「開発とは、男性と女性の二人三脚のようなものです。二人がしっかりと歩調を合わせないと、決して前進できません」。

何百万人もの女性が、バングラデシュ農村前進委員会や、小口貸付を行ってビジネス発足を支援するグラミン銀行といった CSO の活発な活動の恩恵を受けています。これらビジネスから得た利益は、子供たち、特に女子を通学させるのに利用されています。

第三の重要な要因は民間セクターです。成長と雇用創出には、民間セクターの活発な活動が最も重要な原動力となります。

中小企業の成長を阻んでいる最大の障害の一つとして、信用がないことが挙げられます。世銀グループは小口貸付を支援する健全な政策を助言してきましたが、地元と地域の両方のニーズとその取り組み方を含めて、金融サービスへのアクセスを拡張するための斬新な方法をさぐる必要があります。

多数国間投資保証機関（MIGA）と国際金融公社（IFC）は、リスク、信用、資本のニーズに対応する重要な人材資源と助言を提供しています。IFC と世銀が、投資を育む環境作りに重大な貢献をしているものの一つとして、世界 155 カ国の状況を評価した「ビジネス環境の現状報告書」（Doing Business Report）があります。

同報告書によると、多数のアフリカ諸国では事業の登録費が非常に高いため、大半の起業家たちは闇で事業を経営せざるを得ない状態だと指摘しています。

途上国にとって、この報告書は、どの方面でさらなる改革が必要かを決定する際の重要な手段となっています。

法律

最後に、貧困との闘いを進めるには、貧しい人々が法の下で平等であり、法的能力があることが前提となります。これらは、貧しいコミュニティーに埋もれている社会的、経済的なエネルギーを解き放つのに不可欠な要因となっています。

法律が施行され、権利が保護され、契約が守られるのを知つていれば、人々も未来に投資しようという気になります。

さらにまた、健全な法的枠組みは適切な規制環境によって補完されている必要があります。こうした規制環境は、一貫性があり、明晰で、公正に適用されるよう整備されていなければなりません。

あるアフリカのビジネスマンが私にこう語ったことがあります。「賄賂が問題なのではありません。役人が法規を思いのままに解釈する余地がなくなるよう望んでいますだけです」。

III. 結果を出すことに的を絞る

世界 184 カ国の加盟国の皆様と緊密に協力作業を続けるに当り、世界銀行グループは、万人のために何もかもやればよいわけではない点を認識しなければなりません。パートナーである加盟国の皆様にそれぞれ独自の関心事があるように、世銀グループにも独自の能力があります。

世銀があらゆる方面的専門家になろうとすると、結局、何も成功できないまま終わってしまう危険が付きまといます。

学習し、専門知識を開拓するには、加盟国の皆様に耳を貸す必要があります。ナイジェリアの州知事が、私に語ってくれたことがあります。「ここにやってきて、我国の問題を指摘してくれる専門家はもう一人必要ではありません。我国が必要としているのは、解決策といっしょに援助を提供してらうことです」。

こうした解決策を見出すには、教育、保健、インフラストラクチャー、エネルギー、農業といった分野で知識と専門技術を強化する必要があります。

教育

南アジア諸国を訪問中に気づいた前向きな兆候の一つとして、現在、パキスタンとインドが女子教育を重視していることが挙げられます。パキスタンの男性の中には、自分たちの娘にも教育を受けさせる必要があると認めている人がだいに増えているようです。「万人のための教育」ファスト・トラック・イニシアチブを通じて、世銀は、他のドナーに加わって、今後5年間に60カ国で女子の就学率を倍増させる予定です。計画はすでにできています。今必要なのは資源です。明るい未来を切望する多数の子供たちの夢を実現するには、年間最低25億ドルもの資金を調達しなければなりません。

保健

そして、教育と同様、最貧困国の人々の健康問題は、悲劇を生み、成長を遅らせ、機会を阻害します。

過去5年間、世銀はおよそ20億ドルを投じて、HIV／エイズの蔓延を後退させると共に、犠牲者に希望と機会を取り戻そうと努力してきました。私は、人命を救い、人々の尊厳を守るこの闘いに今後も深く関与してゆく所存です。

しかし、マラリアとの闘いに対しても世銀の承諾額を増やす必要があるのは明らかです。

毎日、アフリカの子供たち2,000人近くがマラリアで死亡している現在、行動を起こすのは急務です。

HIV／エイズと同様、緊急にマラリアと戦う必要があるわけです。さらに、的を絞って対応すれば非常によい結果を得られることがベトナムの体験ではっきりしています。1991年にマラリアが流行し、100万人もの人々が感染したとき、ベトナム政府は、各地の村々に援助を集中させ、ベッドや蚊帳、医薬品、殺虫剤を配布したのです。この緊急事態は5年以内に鎮圧され、死亡率も97%低下しました。何と97%もです。

世銀は、20カ国を超えるアフリカ諸国で、マラリアを抑制する「ブースター・プログラム」に今後3年間で6億ドルを支出することを承諾しました。そのため世銀では、ベッドや蚊帳を各国の人口の60%に配布できるようにするほか、症状が現れてから24時間以内に人口の60%が治療を受けられるようにするなど、明確な目標も設定しています。

インフラストラクチャー

この数ヵ月間に、途上国の貧しい人々、富裕者、一般市民、そして指導者から聞いた話の中で最も多かったものの一つは、インフラ投資の役割を世銀が復活させる必要があるということでした。

インフラストラクチャーは、ヘルスケア、教育、雇用、貿易といった他の多くの面でも生命線の役目を果たしています。

ナイジェリアのビジネスのように、その90%が小型発電機に頼っているのでは、貧困に終止符を打つことはできません。ラテンアメリカの貧しい農民のように、作物を各地の市場に運ぶ道路もない状態では、所得の向上も望めません。さらに、20億人もの人々が安全な衛生施設にアクセスできない状態が続く限り、人々の健康を改善することも不可能です。

しかし、こうしたインフラ問題に対処するには、過去の間違いから正しい教訓を学ばなければなりません。目前の利益を追求するために、貧困者の健康やその生活環境が最終的に犠牲にならないよう、一国の資源を知的に管理する必要があるのです。

エネルギーと持続可能な開発

ですから、資源と環境を知的に管理することは成長にも寄与します。国際社会は、途上国のエネルギー需要に見合いながら、気候変動の緩和と適合に一弾となって努力する必要があります。

グレンイーグルズ・サミットで決定したマンデートは、既成概念から抜け出てモノを考える機会を与えていました。我々は、新しい技術をいかに斬新な方法で利用できるかを探りつつ、エネルギー面、開発面での対話を進めています。今後、エネルギー需要の増加に直面するブラジル、中国、インド、メキシコ、南アフリカといった中所得国との間でも協力関係を強化してゆく予定です。その目的は、途上国のエネルギー需要に対応できる、より環境にやさしい新たな開発の道を見出すことになります。

農業

40年前、私は米国予算局のマネジメント・インターンとして、なぜ米国はパキスタンに小麦を投売りして現地市場を破壊するよりも、政府補助金を使って化学肥料を同国の農民に与える方がよいかを説明するために論文を書いたことがあります。

それが、40年後になっても同じようなことをアフリカで行っているように見えるのです。つまり、緊急飢餓対策に終始しているだけで、飢餓を防ぐ農業生産の改善がおろそかになっているのです。

アジアとラテンアメリカでは、70年代と80年代の「緑の革命」が貧困と飢餓の削減、経済発展に重要な役割を果たしました。にもかかわらず、このセクターへの援助総額は90年代に大幅に低下しました。この傾向は逆転し始めており、重要な成果が現れています。

ラテンアメリカとアフリカの研究者の共同作業により、キャッサバの生産性が40%以上も向上しました。さらに研究が進めば、基礎作物の栄養価の向上にも希望が持てます。

しかし、農業投資だけで農家の収入を増やすことはできません。富裕国側が、作物の価格をゆがめ、貧しい農民の市場参入を制限する農業補助金を停止しなければなりません。

次のドーハ・ラウンドで貿易の自由化に成功することが、援助の増額や債務救済と並んで、貧困緩和の重要なカギとなるでしょう。

IV. アフリカ

それでは、これがアフリカにとってどのような意味を持つのでしょうか。

議長からもすでにご指摘があったように、世界銀行グループと他のドナー機関の前途に待ち受ける難しい作業の多くもこれにかかっています。教育、栄養、清潔な水、衛生、ヘルスケア、雇用に対するニーズは膨大で、その難しさも計り知れません。

それでも私は希望を捨てておりません。6月にナイジェリアのオバサンジョ大統領が、私にこう語ってくれました。「アフリカ大陸は常に前進していますよ」。

アフリカの人々は、自分たちの責任の幅を広げ、自らの未来を自分の手に託しています。

ナイジェリアでは政府要人が汚職で拘置されたほか、南アフリカでは、副大統領の顧問が賄賂を受け取った責任で副大統領が解任されました。

新しい世代のアフリカの指導者たちは、任期が終了したり選挙で敗北したときは職務から降りるなど、数々の模範を示しています。

しかし、ここで念を押しておきたいのは、こうした責任が途上国だけのものではない点です。グレンイーグルズ・サミットでは、アフリカとG8諸国との間で、結果を生み出すためのパートナーシップが形成されました。これらのアフリカ諸国は援助と引き換えに実績を出すと誓ったのです。

ミレニアム開発目標（MDG）は、この新しい盟約の条件を定義する際の重要な出発点となるでしょう。これらの目標は、2015年までに何百万という人々を貧困から脱却させるというビジョンを形成することにほかなりません。

しかし、ここでも念を押しておきたいのは、MDGは成長と無関係に達成できるものではありません。

こうしたMDGの達成には、途上国と先進国が成長と公正さを分かち合うことも重要であると認識しなければなりません。持続的な成長が可能でなければ、真の意味での貧困削減も不可能です。しかし、成長だけでは不十分です。今週発表された「世界開発報告」にも指摘されているように、我々は、貧しい人々にチャンスを公正に作り出さなければなりません。それは、貧しい人々が自らの生活を向上させるためだけでなく、社会に貢献できる能力を養ううえでもぜひ必要となるのです。

こうしたチャンスを増し、成長を分かち合うスピードを速め、MDG の達成を支援するため、世銀は「アフリカ行動計画」を今月初旬に打ち出しました。この計画は、アフリカ諸国が今後 3 年間に主導的立場で実施する 25 件のイニシアチブと測定可能な結果を設定したものです。来年の今ごろには進捗状況の報告書が皆様のお手元に届くことでしょう。

V. 世界銀行にとって何を意味するのか

投資の対象が教育であれ、保健、インフラストラクチャー、農業、あるいは環境であれ、世界銀行は結果を出す責任を負っています。

それでは、結果とは何かを明確にするとすれば、それは、貧しい人々の日々の生活に直に影響を及ぼす結果を指しています。そして、我々は、貧しい人々にこれを説明する責任を負っています。

建設した学校や、診療所、企業の数を数えればよいというものではありません。それには、教育課程の質、ヘルスケアの質、そして創出した雇用の質も重要となってきます。貧しい人々が受けるべき機会を否定するような問題を質的、量的の両面から取り組む必要があるのです。

さらに念頭におくべき点は、この世界的な作業を、国別に定義し指導しながらも、一弾となつて進めなければならないことです。我々はチームの一員であることをしかと心得ておく必要があります。

ルワンダでは、国家エイズ審議会の議長であるアグネス・ビナグワホ博士に面談できるという榮誉に預かりました。同博士はプライドを持ってこう語りました。「もし男が一人で診療所にやつてきたら、治療を受ける前に、家に帰って妻子も連れてくるように言われるでしょう」。

ビナグワホ博士はもう一つの重要な点についても確固たる姿勢で臨んでいます。博士は、礼儀正しくもきっぱりとした口調で、ルワンダに資金を投げる機関は、一つの統合化された計画を支援することになり、特別利益団体に資金を費やすことはありません、と述べたのです。

よりよい結果を出すにはドナー同士の協調がもっと必要と我々に願いつつ、同博士とその小さな医療チームは、ドナーと無駄な時間を過さず、人命救助に多くの時間を費やしています。

各国間の協調を拡充するには、世界銀行グループの現地スタッフのさらなる参加が要求されます。ですから、世銀のチームを分権化する努力を今後も続け、適切な人材をもっと現地に派遣すれば、途上国開発ニーズにより的確に応ずることができます。

さらに能力育成作業にも世銀のスタッフ、とりわけ途上国からの女性とスタッフを含める必要があります。

最後に重要なことは、世界銀行グループに勤務する我々自身も腐敗と闘う責務を負っていることです。腐敗との闘いは、単に途上国に対する責任だけではありません。少々考えてみてください。賄賂を受け取る人がいるということは、必ず賄賂を出す人がいるということで、その一人一人が自分の行動を説明する責任を負っているわけです。

世銀のプロジェクトが汚職の対象となることにも我々は十分に気づいており、その措置を講じつつあります。

世界銀行グループが2年間にわたって取り組んできた一連の対策の一つとして「自発的開示プログラム」と呼ばれる新たな汚職対策があります。

このプログラムは、世銀が出資するプロジェクトで詐欺もしくは汚職に関わった企業に対し、限定的制裁と秘密厳守を引き換えに、自発的に情報を提供できるようにしたものです。

同プログラムにより、資金が貧しい人々への奉仕として適切に使用され、この重要な分野で最高の基準を設けることが約束されたのです。

VI. 最貧困という領域を超えて

最後の締めくくりとして、皆様の注意を喚起しておきたいのは、実に明白なことです。それは、世界が変化しているのであれば、我々も変化に応ずることができなければならぬ点です。

貧困を葬り去るために、我々が、世銀の使命を実践するにつれ、組織として成長してゆく心構えも必要となってきます。我々はパートナー諸国とともに一步ずつ前進しながらも、新たに芽生える問題に対処する準備ができていなければなりません。

今日、中所得国には10億人を越す人々が貧困にあえぎながら暮らしています。これらの人々を忘れてはなりません。中所得国の発展と繁栄を支援するには今後も、これらの諸国の特定のニーズに応じた知識を身に付け、そうしたニーズに資金を投入し続ける必要があるのです。

さらに、こうしたパートナー諸国のニーズは、結果に応じ、時とともに変化していきます。成功は新たな問題を生み、それに対応する必要性が新たに生じます。ですから、革新性と適合力は、目覚ましく変化するこの世界で、世銀が引き続き重要な存在として活躍していくうえでのカギとなるでしょう。成功を収めることは、時には問題に取り組むのと同じように厄介な作業なのです。

ですから、未来の構図作りに今日から取り組もうではありませんか。今日の貧困者が明日の起業家へと変身する未来を、今日の疾病が明日の医学的解明につながる未来を、そして、今日の子供が明日のリーダーへと成長する未来を作り出そうではありませんか。

ご傾聴ありがとうございました。